

紀南病院広報誌

第19号

平成22年1月

# つながり

紀南病院スローガン(21年8月～) ゆっくり やさしく 一言 待つ心

母の愛  
海より深い

平成二十二年元旦  
孝

書 野口 孝

# 人間ドックについて

内科 和田敏裕



私は平成21年秋、人間ドック専門医認定試験を受験したところ、幸運なことに合格しました。医療は日進月歩ですが、人間ドックもいろいろな面で進歩しました。今回は人間ドックの現状について紹介します。

人間ドックは病気を早期に発見することを目的に、身長、体重、腹囲の計測に始まり、血圧測定、尿検査、便検査、血液検査、生理機能検査、各種画像診断、診察等のたくさんの項目を、日帰りあるいは一泊二日で実施するものです。

人間ドックの基本骨格はほとんど変わりませんが、新しい検査がオプションとして次々に人間ドックに組み込まれたため、人間ドック専門施設では重厚なものに変貌しています。肺癌、乳癌、前立腺癌、大腸癌等の増加を背景に、小さな肺癌でも描出できるヘリカルCT、乳癌を画像で捉えるマンモグラフィーや乳腺エコー、前立腺癌に特異的なマーカーであるPSA、大腸癌を直接観察できる大腸内視鏡検査等がオプションとして組み込まれてきました。人間ドック専門施設の中には全身の癌を検索するペットCTを実施しているところもあります。

最近の話題としてはテラーメイド健診という概念があります。つまり、同じ規格のドックを漫然と繰り返すのではなくて、受診者の生活習慣、自覚症状等から判断して必要と思われる検査を組み込み、不要と思われる検査をはずして、受診者に最もフィットした内容にするという考え方です。例えば、ヘビースモーカーの場合、肺癌や慢性閉塞性肺疾患が懸念されるため、人間ドックの検査項目として胸部単純X線を省略して、胸部CTと肺機能検査を採用するという考え方です。団体契約等いろいろな制約があって、テラーメイド化は現時点では困難ですが、将来的にはそういう方向へ行くものと思われる。

私自身は内科診察後の結果説明を重視しています。人間ドックの結果は「異常なし」、「要指導」、「要経過観察」、「要精検」、「要医療」、「治療継続」等に分類されますが、事後措置を細かく説明するようにしています。「どういうふうに経過観察すればいいか」とか「どこで二次精検を受ければいいのか」等を、細かく話しています。

当院に赴任して半年近くになりますが、人間ドックを充実させる方向で活動したいと考えています。よろしくお願いたします。

## 健康診断・人間ドック Q&A

**Q** 乳房に気になる症状があるので、乳がんではないかと心配です。

**A** お住まいの市町村が実施している乳がん検診をお受けになる方法もありますが、当院「外科」を受診していただくことも可能です。紹介状は必要ありません。医師の判断でマンモグラフィー等の検査を受けていただくこととなります。また、「乳腺専門外来」を毎月1日設けており（三重大学病院乳腺センター・小川朋子教授）、こちら紹介状不要ですが、電話で予約をしてください。

**Q** 大腸がん検診（便潜血反応検査）で陽性となり、要再検査と指摘されました。紀南病院では、どの診療科にかかればよいですか。

**A** 「内科」になります。健診結果表（診断書）が紹介状の代わりになります。内科ですので、事前に電話で予約をお願いします。

**Q** 人間ドックで甲状腺機能と骨密度（骨粗鬆症）の検査も受けたいのですが。

**A** オプション検査として追加可能です。電話でお問合せいただければ、料金等もご案内します。他の検査につきましても、事前にお申し出下さい。ドックに関しましては、当院ホームページでもご案内しております。

**Q** 脳ドックは受けられますか。

**A** 受けられます。当院脳ドックは、「頭部MRI検査」、「頭部・頸部MRA検査」を行い、後日、脳外科医師からの結果説明を受けていただきます。料金は25,000円（22年4月より）です。お住まいの市町によっては、脳ドック助成金制度を設けている市町もあります。

## 紀南病院組合議会 9月定例会の報告

### —— 20年度決算が2億7千万円の赤字に ——

去る9月29日、紀南病院組合の定例議会が開催されました。公平委員に熊野市在住の糸川貞剛氏（再任）、御浜町在住の平野力氏（新任）が選任同意されました。

給与条例の改正も行われ「救急勤務医手当・分娩手当」が新設され、10月から支給される事となりました。

緊急の医療機器の購入等の補正予算が承認され、平成20年度決算について総事業収益40億2,082万4千円、総事業費用42億9,417万4千円、差引純損失2億7,335万円の報告を行い、決算が認定されました。この内訳は病院会計が3億2,055万1千円の赤字、きなん苑会計が4,720万1千円の黒字となっています。決算の数値は平成19年度と比較すると赤字が3,606万5千円増加しています。赤字の大きな要因としまして入院・外来患者の減少（前年比10%減少）があります。

病院としましては、4月から診療報酬の請求方法を変更（DPC）する等の対策を講じていますが、併せて診療科の充実や、外来受診制限を撤廃するためにも医師の確保に努めることとしています。

## 研修医だより

紀南病院では、業務以外のサークル活動も積極的に行われています。サッカー、バスケット、陸上、スキューバダイビング、熊野古道散策会やコーラスなどバラエティに富んでいます。研修医の皆さんにも、積極的に参加してもらい、職員との親睦を深めてもらっています。

特にサッカーを大学等で経験された方が多く、交流試合などで思いもよらない活躍をすることもあるようです。また、バイオリンやピアノなど音楽を小さい頃からやっている方も多く、コーラス部とセッションでミニコンサートを開催したりしています。



年5回ほどおこなっている熊野古道散策会は特に人気が高く、たくさんの研修医が参加しています。いろんな職種の職員と一緒に山に登ることで、親睦がより深められ、熊野の雄大な自然を体感でき、また登り切った達成感は格別で、写真のように皆とてもいい顔をしています。

地域での研修では診療だけではなく、地域の人、生活や文化などを知ることとても大切です。病院職員や地域の人と触れあえるこういうサークル活動やイベントなどは、今後も積極的に参加してもらおうと思っています。

## クリスマスコンサート

12月17日、恒例のクリスマスコンサート（ハートフル委員会主催）が病院エントランスホールで行われました。紀南病院コーラス部は今回洋楽に初挑戦し、「We are the world」を美しいハーモニーで披露しました。その後、紀南高校吹奏楽部の皆さんが「アベマリア」「クリスマスメドレー」などを演奏してくれ、最後は全員で「赤鼻のトナカイ」を合唱しました。ささやかな心温まるコンサートでした。





## 紀南病院へ戻って来られた内科・中前範子医師からのメッセージ

——『紀南医療タウンミーティングin神木』（平成21年11月19日）での挨拶に加筆——

1年半ぶりに帰ってまいりました、中前です。

幼い頃からずっとこの地域で医師として仕事をするのが私の夢でした。亡き祖父母がこの地域の山奥の小さな集落に暮らしていました。私自身は愛知県で育ちましたが、遠くにある診療所へ大変な思いをしながらも楽しみに通っている祖父母の姿を、幼少時から見聞きし、そんな祖父母を何とかしたいと幼な心に思ったのが、医師を目指したきっかけです。

その後もずっとこの地域で仕事をしたいと思ってきました。しかし残念ながら、地域で若い医師を育てるシステムがなかったため、自分なりに考えながら、いろんな地域の病院で研修を重ね、4年前に初めてこの地域へ内科医として赴任しました。愛する土地で医師として仕事させていただける喜び、やりがいはとても大きかったのですが、



医師不足の中、指導医も少なく、専門科もない中で、数多くの患者さんを担当しながら、内科の診療を幅広く、奥深く行ってゆかねばならない状況は、勉強になるとはいえ、若い医師にとっては、自分の力不足を痛感することも数多くありました。これでよかったのだろうか、と自分の診療を立ち止まってゆっくりと考えることもなかなかできず、答えを得ることもできませんでした。また、長期的な視野に立ってこの地域の医療を考えている医師は少なく、医師不足の現状や若手医師の教育に対して、その場しのぎの応急処置的な対応しかできていない、という残念な現状もありました。自分の医師としての力を確かめたい、高めたい、という思いが強くなると同時に、いったん他の病院に勉強に出て、医師として成長して戻ってくることで、少しでもこの地域の医療の質を高めることができないうかが、と考えるようになりました。そして悩んだ末に、この地域を離れて、若手医師の教育で名高い大阪の市立堺病院で、一から勉強しなおす機会を頂くことを選びました。振り返ってみると、向学心は医師人生の中で最も高まりましたが、激務の中、体力的にも精神的にも疲弊していた、ということも、紀南病院を一旦離れることを選んだ理由のひとつであったと思います。

たった2年半で医師が病院を離れるということは、患者さんにとっては身勝手な行動に思われるかもしれません。ですが、医師もまた、辛い思いをして去ってゆくものであることも知っていただきたいと思います。また、医師として成長するためには、場所を変えたほうがよい場合もあります。新しく赴任した医師と関係を作り上げてゆくことは患者さんにとってもお仕事なのだとして理解していただきたいと思います。医師は去るときに一生懸命患者さんの申し送りをしてゆきますし、新しい患者さんに出会ったときには、足りない情報がないか、確認するようにしています。新しく担当する医師に出会ったときには、皆さんのことをできるだけ教えてください。

ところで、2年前、この地域を離れて勉強に出るべきか、とても悩んでいたときに、タウンミーティングに参加し、住民の皆さんにその悩みを打ち明けたことがありました。医師が一人病院から減ることになるかもしれない、ということは、短期的にみれば、患者さんや病院で働いているスタッフの皆さんにも大変迷惑をおかけすることになります。しかし、私の悩みを聞いた住民の皆さんの反応は、"先生の夢をかなえてあげたい""先生を勉強に出してあげたい"という、とても温かいものでした。その後この地域を離れることを決めたとき、最後のタウンミーティングで旅立ちのあいさつをさせていただきましたが、やはり、住民の皆さんは"いってらっしゃい。しっかり勉強して、また帰っておいで!"という温かい声をかけてくださったのです。

そのことは、今でも思い出すと涙が出るほどにありがたく、嬉しいものでした。市立堺病院で修行している間も、ずっと心の支えになっていました。医師として成長して、いつかまた、温かい声をかけてくださった皆さんに"ただいま"を言いたい……、そう思って、研修に励んでいました。

紀南地方のすばらしいところは、厳しい現状の中でも、住民、行政、医師会、救急隊、病院など、様々な立場の人たちが、一緒に力を合わせて医療を作り上げてゆこう、としてゆけるところです。タウンミーティングのような取り組みがあることは、全国に自慢できるすばらしいことなのだ、ということを感じ、皆さんには知っていただきたいと思います。

紀南病院の内科医が初めて減ったときから、医師会の先生方が休日の救急を手伝ってくださったり、外来の患者さんを受け入れてくださったり、力を貸してくださっています。住民の皆さんが、紀南病院の内科に紹介状なしでは受診できなくなったという状況に協力してくださっていることにも、とても感謝しています。救急隊の方とも、勉強会を通じて顔のみえる関係をつくりながら一緒に勉強させていただけており、とても励みになっています。1年半、私が堺で勉強させていただいている間にも、タウンミーティングを着々と続けていただいていたことにも感謝しています。

1年半ぶりにタウンミーティングに参加させていただくにあたって、住民の皆さんがどう変化されているだろうか、と楽しみにしていました。以前には聞かれなかった、住民の方から住民の方へのコメント"困ったときには、まずは近くのかかりつけの先生に相談すればいいんですよ"や、お互いに自分のできることをやってゆこう、というお話も聞かれて、とても嬉しく思いました。

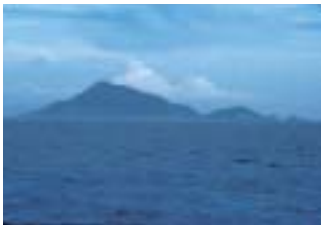


私はこの地域への思い入れが強いので、帰ってくるな、といわれぬ限り、いつかまたこの地域へ戻ってきたと思います。ですが、住民の皆さんが医師の幸せを願ってくれて、勉強に出ることを応援してくださったからこそ、医師を育ててゆこうと考えてくださったからこそ、より一層、もう一度ここで、皆さんと一緒にこの地域の医療を作ってゆきたいと思うことができました。

皆さんは、兵庫県の柏原病院のことをご存じでしょうか。小児科医が激務の中どんどん少なくなっていくとき、その話を聞いた小さな子供をもつお母さんたちが、小児科を守る会を結成し、住民の立場から、いわゆるコンビニ受診を控えよう、という啓蒙活動をしたり、時間外に病院にかかるときのパンフレットを作成したり、小児科の先生にありがとうの気持ちを伝えよう、と病院へありがとうのメッセージを送ったりする活動をはじめた結果、小児科医が再び病院に集まるようになり、全国の医師不足に悩む地域にとってひとつのモデルとして知られるまでになった病院です。住民の皆さんの力で、医師を集めることができるんです。

私の夢は、この地域でも、住民の皆さん主導の活動をしていただけるようになることです。たとえば、タウンミーティングの企画にも住民の方が参加して下さって、私たちが逆に各地域に呼ばれておじゃまできるようにになったら最高だなあ、と思います。また医師不足の現状を知るために病院に見学に来ていただいて、当直明けの医師の疲弊している姿を見ていただくのもいいのではないかと、などと思います。

医療は医療従事者だけが作るものではありません。この地域には、みんなで医療をなんとかしてゆこう！と団結してゆける、すばらしいパワーがあると信じています。どうか、皆さんのお力を貸してください。今後ともよろしくお願ひいたします。



## 暖かな水風呂

奥野正孝

おむすびの形をした神島の山の頂き近くに小さい神社がある。八代神社という名のこの神社は、三島由紀夫が小説「潮騒」の冒頭で述べているように、島の中で眺めの最も美しい場所の一つである。

私は小学生のころ、伊勢神宮の神苑を遊び場所にしていただけが、神宮のミニチュア版のようなこの神社が好きで、診療が終わるとよくトレーニングジャツに着替えて二百段余りの階段を駆け上がりお参りをした。そのうちなぜか結婚式を挙げるのならここしかないと思ひ込み、そのチャンスは一度目の神島の勤

務が終わった直後にやってきた。そして、気軽に神主さんに式を頼み、島の集会場を式場として借り、ある旅館に披露宴の依頼をした。しかしこれが島をあげての大騒ぎになってしまったのである。

島の結婚式は三日三晩続行われるのが習わしで、最近ではそれを敬遠して本土側に行って式を挙げるようになっていたため、神社での結婚式はここ数年したことがなく、まず氏子一同段取りを整えるのに苦労した。そして披露宴を引き受けてくれた旅館は、数週間も前から宴に出す体長七十センチは優に越す大きな鯛や、引出物に出す伊勢海老をたくさんそろえ、当日は島にある旅館の板前さんが総出で料理にあたった。

式当日は快晴で、我々二人は披露宴を依頼した旅館で衣装を整えて式に挑んだが、ここでも誤算が生じた。私はただ衣装を着る場所としてお願いしたのだが、旅館の女将さんは自分の家で花嫁と花婿両方の衣装を着せて送り出したのだから我々二人は自分達の子供であると頑として譲らず、はからずも神島に第三の両親が誕生してしまったのである。

神社へ登る階段は、私にとっては慣れない羽織袴で足がもつれて大変であったが、文金高島田姿の我が配偶者は、途中で休むとペースが乱れるということで、私と仲人が息も絶え絶えに登っているのを横目に、さっさと駆けあがってしまった。平日であるのに小学生の子供達が舞を踊り、海を渡り松の木々を揺らす風の音にかき消されながら祝詞が上げられた。神社から式場に向かう沿道には島の人達があふれ祝福してくれた。

披露宴は小学校時代からの伊勢の友人達が進行をし、私の好きだったオフコースの曲が流れ続け、正月以外は門外不出の獅子舞が、反対していた長老達を青年達が説き伏せて舞われた。青年達は二次会を全て引き受けるということで、代表以外は披露宴には出席せず、漁を休んで朝から不器用な手で料理をし続けた。

式が終り、島の外から来てくれた人達は、その日の朝の島に来る船での酔いと、宴の酒の酔いとでふらふらしながら帰りの船に乗った。船が岸壁を離れたその時、大役を果たしほっとした伊勢の友人達が、岸壁で手を振る私の背をどんと押した。もんどり打って冷たい五月の海に落ちた私は、海の中から強ばった顔で笑いながら手を振った。やっと岸壁に這い上がった私をもう一度押す複数の手があった。今度は誰かわからなかった。再び笑い

があふれる中、ちょっと心配そうな両親の顔が船の上に見え隠れした。

海から上がり寒さに震える私を見て、あるばっちゃん（神島の方で「おばあさん」）が言った。「風呂がはいっとるよ。はいりな。」私は大喜びでばっちゃんについていき、冷たい服を脱ぎ捨て風呂に飛び込んだ。しかし、風呂は五月の海と同じ冷たさの水であった。ばっちゃんが言った。「あっ、沸かしとくの忘れた。」

早く暖まるようにと水をかき回しながら目を閉じると、湯になりつつある水と人々の暖かさが、ゆっくりと体中に染み渡ってきた。



区 分		月	火	水	木	金	
内 科	午前	1 診(初診)	奥野正孝内科総括	奥野正孝内科総括	中前 範子医師	武田 裕子医師 (内科医師)	奥野正孝内科総括
		2 診 検診	和田 敏裕医長	和田 敏裕医長	和田 敏裕医長	和田 敏裕医長	和田 敏裕医長
	午後	3 診(再診)	西久保公映副院長	西久保公映副院長 (11:00~)	西久保公映副院長	西久保公映副院長 (11:00~)	糖尿病専門外来(月1回) 住田 安弘医師 肝臓病専門外来(月2回) 岩佐 元雄医師 杉本 龍亮医師
		4 診(再診)		中前 範子医師		尾辻 典子医師	循環器専門外来(月1回) 山門 徹医師
外 科	1 診	乳腺専門外来(第1月曜日) 小川 朋子医師	須崎 眞副院長	野口 孝院長	野口 孝院長	須崎 眞副院長	
	2 診	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	熊本 幸司医師	藤井 武宏医師	藤井 武宏医師	
整形外科	再 診	川喜田英司医長		川喜田英司医長	渥美 覚医師	渥美 覚医師	
	初 診	渥美 覚医師		渥美 覚医師	川喜田英司医長	川喜田英司医長	
脳神経外科	2 診	仲尾 貢二医長	仲尾 貢二医長		仲尾 貢二医長	脳ドック専門外来 仲尾 貢二医長	
眼 科	1 診	久保 朗子医長 (第1・第3・第5休診)	久保 朗子医長	久保 朗子医長	久保 朗子医長	久保 朗子医長	
産婦人科	1 診	葛西 普一医長	紀平 知久医師	關 義長医長	葛西 普一医長	紀平 知久医師	
小 児 科	1 診	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長	鈴木 幹啓医長		鈴木 幹啓医長	
皮 膚 科	1 診	嶋 聡子医長		嶋 聡子医長		嶋 聡子医長	
神 経 内 科	1 診					木田 博隆医師 谷口 彰医師 成田 有吾医師	
泌 尿 器 科	1 診			堀靖英医師(午後)			
耳 鼻 咽 喉 科	1 診				松浦徹医師(午前)		
歯科口腔外科	1 診	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	平本 憲一医長	
備 考	※ 受付時間は午前7時30分～午前11時30分までとなっております。ただし、急患については時間外でも受付します。なお、当院を初めて受診される患者様及び、診察券をお持ちでない患者様の受付時間は、午前8時からとなります。 * 整形外科・皮膚科の受付時間は午前7時30分～11時までとなります。 * 神経内科の診療は、現在 新規の患者様の受け入れが困難な状況です。内科・脳神経外科等へご相談下さい。 * 眼科は、第1・第3・第5月曜日は休診となります。 * 泌尿器科の診療は、現在 新規の患者様の受け入れが困難な状況です。かかりつけ医にご相談下さい。						

整形外科の休診日が「木曜日」から「火曜日」に変更になりました。

外科医師の異動のお知らせ

2月1日付で、外科・熊本幸司医師が退職し、加藤宏之医師が着任します。

## 看護部院内研究発表会 (12月7日)

今年は5部署からの演題発表となり、どの部署も日々臨床にて疑問に感じたり悩んだりする中、スタッフが患者さんの立場に立って考えたことや、患者さんの言葉から気付かされた事を取りあげ、工夫された内容でした。発表に至るまではテーマ選びから実践、論文のため、修正など三重県立看護大学の先生や教育委員の指導協力を得て、日々忙しい中、時間をかけ絶大な努力がなされています。

聴講者も100名の参加があり、質疑応答では今後の業務に役立てようとする熱心な姿勢もうかがえ、これは看護理念でもある地域の患者様に質の高い看護が提供できるようにという前向きな姿勢を感じさせるものでもありました。総評(野口院長、奥野内科総括、久保事務部長)では患者さんの立場に立って考えてきた努力が認められたねがらの言葉と、小さなことを一つずつ研究し、積み重ねていくことの大切さや、今後の看護研究における方向性をご指導頂き、研究への関心も高まったものと思われまます。

ここ数年、この発表の中から三重県看護研究発表会、東海北陸看護協会研究発表会へも選出されており、今回も期待されているところであります。



### ■病院理念

優しく、温かい、確かな医療を提供し、紀南の環境文化に根ざした地域連携の充実に努めます

### ■基本方針

1. サービス精神(KINAN)の徹底 —— (K)気持ちよこめて、(I)いつまでも、(N)納得のいく、(A)安心で安全な、(N)任務の遂行
2. 患者さんの権利を尊重し、わかりやすい説明を励行
3. 生活の質の向上(QOL: quality of life)を中心とした診療と援助
4. 行政や医師会と協同した地域医療の向上(救急医療・高齢者医療・健診・地域連携・福祉など)
5. 職員研修の強化と遠隔地医療教育の必須化
6. 職場環境の改善と健全な病院経営に基づく医療環境の提供